

小金井市と協働で、市民が食品の放射能を測っています

食品放射能測定

検体募集中

小金井市に在住・在勤・在学の方で、気になる食品の放射能測定をしたい方はどなたでも無料で利用できます。

はかって安心!
食品放射能測定
小金井市在住
在勤・在学の方
無料

測定のお申し込み
問い合わせ



小金井市役所経済課
消費生活係

042-387-9831

- 検体は食品にかぎります。
- 一回のお申し込みにつき、お一人2検体までとさせていただきます。(それ以上の場合は次の月をお願いいたします。)
- 検体は200mlをミキサーなどでなるべく細かく粉砕し、ビニール袋に入れて指定の測定日の朝9時に上之原会館にお持ちください。(測定室で粉砕も可能です)
- 現在の測定日は毎週金曜日、1日2検体を測定しています。
- 受け渡し日程についてご都合が悪いという場合は別の受け渡し方法も調整いたしますので、ご相談ください。下記に記載のメールでもご相談は受け付けます。
- 測定結果は後日、経済課より指定の場所にてお渡しとなります。郵送でお送りすることも可能ですので、お知らせください。
- 測定検体は腐敗しないものであればお返しすることも可能です。受け付け時にお知らせください。

測定場所:
小金井市立上之原会館
武蔵小金井駅北口5分
〒184-0004
東京都小金井市本町5-6-19

■ 測定器

シンチレーション検出器: CANBERRA 802 シリーズ 3x3 インチ
MCA (マルチチャンネルアナライザ): Osprey
測定核種: セシウム 134, 137 測定時間: 6 時間



こがねい放射能測定室 会員募集中!

一緒に測定活動に参加してみませんか

まずは下記までご連絡いただき、お気軽に測定室やミーティングをご見学ください。

小金井市からの委託を受けて、市が購入・維持管理する放射能測定器による食品の放射能測定を、市民ボランティアが行っています。依頼を受けての放射能測定のほか、放射能に関連する講演会の開催なども行い、広く市民の方と学ぶ場を持つための活動も行っています。測定活動を通し放射能に関する知識も深まります。ホームページ、Twitter、Facebook もご覧ください。

測定結果はホームページ、SNSでも公表しています
小金井市放射能測定器運営連絡協議会
e-mail: koganei.sokutei@gmail.com

公式
HP

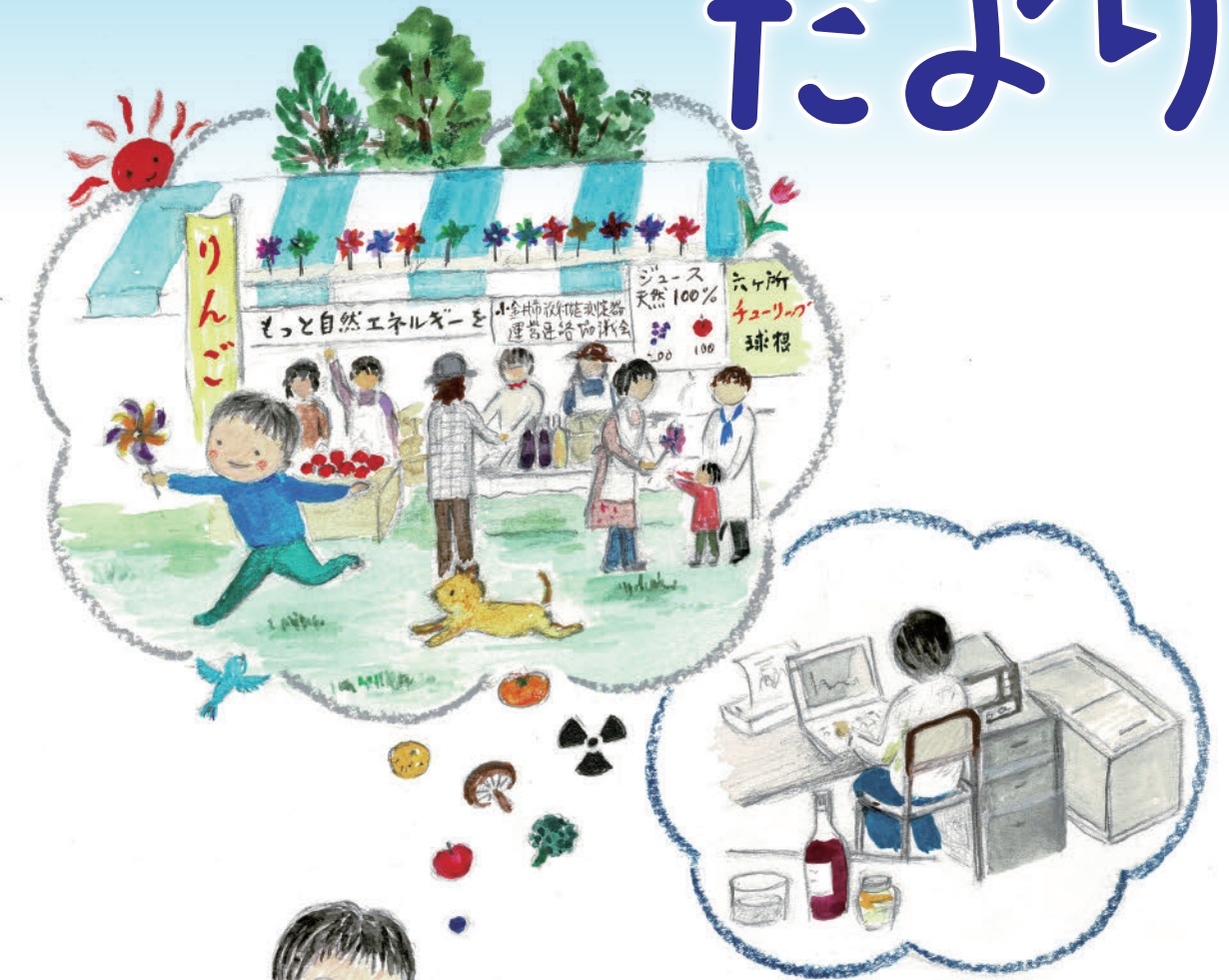


<https://hosyanousokuteishitsu-koganei.jimdofree.com>

こがねい

2021年3月 第27号

放射能測定室 だより



こがねい放射能測定室 30周年をむかえて

小金井市放射能測定器運営連絡協議会



こがねい放射能測定室 30周年をむかえて

2011年 なかよし市民まつりの出店にて 左：中嶋直子（現協議会会員） 右：伏屋弓子さん

1990年7月に発足した小金井市放射能測定器運営連絡協議会（以下、協議会）は2020年で30周年を迎えました。行政が測定器と測定室を所有し保守点検も行い、運営は市民のボランティアが担うという全国でも珍しいスタイルで30年続いています。測定室立ち上げ時に活動していたメンバーである伏屋弓子さん、中嶋直子（現協議会会員）に協議会発足時からのエピソードをうかがいました。

チェルノブイリ 原発事故の衝撃、そして

【矢澤】測定室の活動はどのような形で始まったのでしょうか？

【伏屋】ちょうど私は生まれたばかりの長男に授乳している時でした。隣の部屋のテレビから「関西のお母さんの母乳から放射能が検出されました」というニュースが聞こえてきたのです。「えっ、何のこと？」と頭が一瞬フリーズしたあと、それがチェルノブイリ原発事故の影響によるものだとわかりました。今この母乳に放射能が含まれているかもしれない？という不安に一気に包まれ、涙が止まらなくなり、大人は子どもたちに取り返しのつかない罪を犯した、本当に申し訳ない、何かできることをしなければと強く思いました。

保育園に長男を預けるようになってから、気持ちを同じくする仲間もみつきり、他の脱原発運動グループともつながって、小金井市でできることを探り始めましたが、「何かできること」と言っても何をしたら良いかわかりません。一人のお父さんが「測定運動」というものがあると教えてくれました。「ソ・ク・テ・イ？」行政に食品の放射能を測ってもらうこともそのひとつ

だと知りました。チェルノブイリ原発事故の影響を受けているかもしれない輸入食品の水際のチェックが杜撰だということも聞いていましたので、まずは子どもの口に入る食品の放射能を行政に測ってもらおうと方針が決まり、決まれば即実行です。

【矢澤】なるほど、同じ思いを持った市民が集まって声をあげたわけですね。

【伏屋】6月の議会に陳情しようということになり、わずか1ヶ月半で陳情書作成から署名(2000筆)を集め、小金井市議会全会派一致で放射能測定器を購入することが採択されました。

【中嶋】チェルノブイリ原発事故が起きた時、我が家の三男は1歳になったばかりでした。遠い国の出来事で自分には関係がないと思ったのも束の間、事故の1週間後8000kmも離れた日本にも放射能は降り注ぎました。国境を越えて汚染は広がり、ソ連政府は事故を隠蔽することはできませんでした。

伝わってくる被害の深刻さに、原発の安全神話は吹き飛び、原発大国日本に住む自分たちの問題として、原発の危険性を考えざるをえなくなったのです。

そうして思いを同じくする生協の仲間たちと「小金井・脱原発よもぎの会」を立ち上げたのは1988年春のこ

とでした（年間3、4回の通信発行、学習会、写真展等7年間活動しました）。時を同じくして伏屋さん達の「市に測定をを求める運動」が始まり、よもぎの会へも協力依頼があり、共に「小金井市に放射能測定器の設置を求める陳情」の署名活動に取り組みました。

【矢澤】インターネットで世界中がつながっている今の私たちからみると、陳情のための署名活動が事故から2年後ということに、正直「なぜそんなに遅くなったのだろう」と疑問を持っていました。お話をお聞きして当時を思い返すと、中嶋さんが「隠蔽」という言葉を使われていますが、事故当時のチェルノブイリはソビエト社会主義共和国連邦のウクライナ共和国にあって、前年にゴルバチョフ書記長による改革が始まってはいたけれど厳しい情報統制が敷かれていたという背景があったのですよね。

チェルノブイリ原発事故の第一報が日本に報道されたのも、スウェーデンの原子力発電所の空間線量が異常に上昇したことがきっかけで欧州経由でした。そして1年以上経ってから、日本でも輸入食品から放射能検出のニュースがマスメディアで報道され始め、遠い日本の食卓にも放射能の影響が及んでいることを広く市民が知ることとなったようですね。

【中嶋】そうですね、小金井市内にも、原発について異議を唱える市民グループが様々な活動をはじめていました。この協議会も設立当時は7団体くらいが集まっ



1998年こがねい放射能測定室だより表示イラスト
チェルノブイリの子ども達の絵画展を、上之原会館消費生活展で開催したイラスト：中嶋直子

た組織だったのです。

【矢澤】いろいろ資料を見ていると、その当時は自治労とか都労連のような公務員の団体が脱原発運動に参加したり測定室を作ったりしていたと知り驚きました。

【中嶋】チェルノブイリ原発事故がきっかけで全国的な脱原発運動が盛んな時期でした。脱原発の集会に行くといろいろな職業の方が来ていましたが、中には市の職員の方もいました。

【矢澤】話は戻りますが、陳情採択後、測定室開設まで少し時間がかかったようですが、なにがあったのでしょうか。

【中嶋】陳情は通ったものの、測定器購入までには2年もの月日を要しました。その間、活動を担った中心メンバー6人で「小金井に放射能測定室をつくる会」（後に「つかった会」）を結成、機種選定のための学習会を行い、当時既に行政と食品の放射能測定をしていた中野区や藤沢市に出向いて測定室の見学をし、行政と話し合いを重ね、小金井市消費者団体連絡協議会に参加して、測定器の必要性を訴え理解を求めました。

協議会設立。 測定活動を自分たちの手で行う決断へ

【伏屋】現実には測定作業の件数という問題があり、すぐには測定器購入には至らず、紆余曲折の末、測定作業は市民が担うという形で2年かかってやっと協議会設立が実現しました（1990年7月7日）。

自分たちが測定業務を引き受けるしかないことと決意した時、当時からそして設立後初代協議会会長として中心的役割を果たしてくれた方と一緒に、「放射能の測定なんか私たちにできる？ 何年やれる？ 10年やれば署名してくれた人たちに責任を果たせるかな？」などと話したものです。暗くて広い海に漕ぎ出すような感覚を持ちました。

【中嶋】そうした私たちの運動を励まし、支え続けてくださったのが「東京大学アイソトープ総合研究所」で働いておられた小泉好延先生です。素人の測定活動でしたが、データの読み方など専門の先生から分かり易く教えていただき、ありがたいことでした。

【矢澤】私も参加していましたが、協議会の活動の中に

2016年まで毎年10月に小金井公園で行われる「小金井なかよし市民祭り」への出店がありましたよね。

【中嶋】多くの市民が訪れる「小金井なかよし市民祭り」は協議会の測定活動を広く知ってもらうための大切な場所でした。放射能の危険性や、原子力防災のパネルなどを作って展示したり、『測定室だより』を配って測定活動の広報に努めました。

そして青森の核燃料サイクル施設に反対していたリンゴ生産者からリンゴジュースやぶどうジュース、低農薬のリンゴなどを仕入れ、「つくった会」が販売しました。売り上げは協議会経由で「チェルノブイリに放射能測定器を送る会」に寄付し、移住ができないチェルノブイリの市民への支援としていました。

当時協議会のアドバイザー的存在だった小泉先生は毎年チェルノブイリを訪問され、現地の救援にも力を注いでおられました。協議会の設立総会では「4年目のチェルノブイリ」と題して講演していただきましたが、その中でチェルノブイリの母親たちが一番必要とし望んでいる物は「食品の放射能を測る測定器なのだ」と知ったことがきっかけでした。

測定活動と市民同士の学びあい

【矢澤】協議会では設立当時から講演会や勉強会を開いていますね。どのような内容があったのでしょうか。

【伏屋】将来の事故時の対応という課題の中で、**私たちの問題意識は原子力防災へも向かって行きました。**より広く市民に放射能や原子力問題に関心をもっていただくため、様々なテーマでの講演会、上映会は年1回絶やさず続け、私たちもさらに知識を深めるため、メンバー中心の学習会も続けていました。

【矢澤】原子力防災については、『コネティカット州原子力発電所非常事態対策ガイド』を発行されていますよね。

【伏屋】はい。アメリカのコネティカット州で作られた原子力防災マニュアルが非常に参考になることがわかり、3年もの時間をかけて、本物と瓜二つのレイアウトで1999年『コネティカット州原子力発電所非常事態対策ガイド』を日本語翻訳・出版しました。印刷所から納品されてきた翌日、東海村JCO核燃料加工施設の臨界事故が起きて驚きましたが、この影響もあってこのガ

イドブックが注目を集め、新聞、ラジオなどで取り上げられることとなりました。全国から多くの注文が寄せられ、自分たちの仕事の重要性を再確認させられた出来事でした。

【矢澤】当時はどのように協議会からのお知らせを市民に届けていたのですか？

【伏屋】重要な測定結果が出た時や講演会を開催する時など、広く市民にお伝える必要を感じ、年に3、4回「はがきニュース」というお知らせを発行していました。これまで講演会などに参加していただいた方や、お世話になった方、「ガイドブック」で知り合った方へはがきでのお知らせを送るもので、協議会のメンバー交代で原稿を書きました。

どんな形であれ、何か表現することは内省も求められ、やはり自分たちを成長させてくれたのではないかと思います。

市との協働事業。その意義とは

【矢澤】市との協働事業として、公立の保育園、小・中学校の給食食材の測定もしていましたよね。

【中嶋】給食食材の測定について教育委員会と話し合いをして、1991年から給食食材の測定をすることが決まり、保育園5園、小学校9校、中学校5校分（各校1品目）を年1回測定することになりました。2012年に市が給食食材の測定事業を始める前までの12年間続けました。



コネティカット州原子力発電所非常事態対策ガイド日本語翻訳版

【矢澤】1990年当時、各地に同じような測定所が生まれていました。中野区にも消費者センターが窓口になった測定室があり、千葉県柏市も行政が予算を出して測定をしていましたが今ではなくなっています。今も続いているのは神奈川県藤沢市と小金井市くらいです。私もなんとか続けたいと思い活動してきましたが、小金井の測定室はなぜ30年続いているのでしょうか。

【伏屋】やってみれば30年続いたのですから、始めた私たちも驚きです（笑）。しかし今振り返ってみれば、市が測定器を所有し、市民が測定業務を引き受けたこの形（後に小金井方式と名付けられた）がかえって良かったのではないかと思います。実際に測定を始めてみると、設立当初こそ輸入食品のスパゲッティやマカロニ等に検出がありましたがほとんどはN.D.（検出限界値以下）が続くこととなります。普通に考えればやりがいを無くすところではあるでしょう。その頃メンバーとよく話していたのは「もし日本で原発事故が起きたら必ず測定器が必要になる」ということでした。放射能測定はもちろん目の前の食品を測り、さらに流通を監視することが役割なのですが、測っても測ってもN.D.が続く中で測定し続けることができたのは、事故時の対応という使命感が常に背中を押してくれていたからだったと思います。

30年続けられた原動力とは…

【矢澤】中嶋さんは今も私たちと一緒に測定活動を行っています。続けられたのはなぜだと思われませんか？

【中嶋】30年続いたのは、小金井市との協働事業ということ、また小泉先生に助言いただいて測定検体の容量を200ccに決めたことは大きいと思います。目の前の食品が汚染されていないことを市民が気軽に確認するためには、無理なく検体を用意でき無料で測定できることが重要でした。それからこの活動で出会えた仲間たちです。

協議会設立総会後の懇親会で、小泉先生がおっしゃった言葉は忘れられません。

「運動というのは、人間関係なんですよ。」

……全くその通りでした。信頼し合い、支え合った素晴らしい仲間たちと共に楽しく充実した時間を過ごすことができ幸せでした。辞めたいと思ったことは1度もありませんでした。

【矢澤】測定活動以外にも学習活動や地道な広報活動をメンバーでしてきたことが、協議会メンバーの結束にも繋がったのでしょうか。そしてやはり市との協働事業という事も。

【伏屋】市民サイドのことばかり話してきましたが、私も30年続けられた要因には測定器を市が所有し、メンテナンスは市の予算でおこなわれ、測定室が上之原会館という市の集会施設にあるということやはり非常に大きいと思います。行政との連携は望ましい形のひとつであり、特に経済課の方々には感謝しつつ、これからもより良い測定業務のために市民を支え続けてくださることを願ってやみません。



1990年導入時の測定機器。当初は上之原会館調理室に設置されていた。

【矢澤】伏屋さんはその後小金井市から引っ越されて、現在は転居先の新宿区で「新宿代々木市民測定所」のメンバーとして活動されていますね。

【伏屋】はい。私は新宿区に転居したことがきっかけで、地域で測定室を設立しようとしていたグループに合流し、「新宿代々木市民測定所」の立ち上げに関わりました。「新宿代々木市民測定所」ではゲルマニウム半導体検出器による詳細な測定もできます。

【矢澤】こがねい放射能測定室で気になる検体が出てきたときも、ときおり「新宿代々木市民測定所」で詳細な測定をお願いしていましたね。ゲルマニウム半導体検出器での測定で特に気になっているものはなんですか。

事実と向き合い、事実を記録する。

【伏屋】私たちの測定では、福島原発事故から10年になろうとしている今も、子どもたちの尿や食品に放射性セシウムが含まれているのを数値として目の当たりにしています。放射能測定の意義については前述したことの他にもう1点「事実と向き合い、事実を記録する」ということがあると思っています。

現在、福島第一原発事故による放射能汚染の実態を研究したり、食品の汚染状況を測定することが福島や東北の復興の足を引っ張ると言われる場合があります。逆の言い方をすれば復興するためには「放射能汚染や被ばくの

ことは気にしないようにしましょう」、「もう大丈夫だということにしよう」とする力を感ずることが少なからずあります。また、未だ福島第一原発のデブリの始末も手付かずであり、たまりつづける汚染水の海洋放出の問題など、原発事故の爪痕は消えてはいません。

人々の不安解消から、真の復興へ

【矢澤】そうですね。まだ福島県には原発事故が原因で仮設住宅に暮らす人が1600人以上で、仮設暮らしは11年目になるという現状があります。目に見えない放射能を見える化することは、測定者としての私の経験からは、むしろ安心につながり、本当の復興になると実感しています。また、電力供給の一部をまだ原発が担っている現状ならなおさら放射能測定の役割は大きいですね。今の協議会のメンバーは30代~70代まで、それぞれ仕事、子育て、地域の活動などで多忙の中での活動ですが、測定を続けることを大前提に活動をつなげていきたい。2019年に測定器が更新されたので、これからまだまだ小金井市とともに協働で測定事業を継続できればと思います。今回は測定室立ち上げ当時のお話をお二人に聞くことができ、今後に向けてまた新たな気持ちで活動に向き合える気がしました。どうもありがとうございました。



2002年消費生活展（上之原会館）の様子。劣化ウラン弾による放射能被害を伝えるため、大きな展示パネルを制作。

食品放射能測定結果 [2019年9月~2020年12月]

| 測定日 | 測定品目 | 産地 | 検査結果（放射能濃度） | |
|-------|--------------|-----------|-----------------|-----------------|
| | | | セシウム137 (Bq/kg) | セシウム134 (Bq/kg) |
| 10/19 | 原木しいたけ（加熱） | 群馬県 | 15.7 | ND |
| 11/15 | 干しいたけ | 長野県 | 36.78 | ND |
| 11/29 | 干し柿 | 福島県南相馬市 | 9.14 | ND |
| 12/6 | 2011梅干し | 小田原市 | 8.55 | ND |
| 1/24 | 干しなめこ | 不明 | 51.51 | ND |
| 2/7 | 製茶 | 神奈川県小田原市 | 15.67 | ND |
| 2/7 | 干しいたけ | 神奈川県小田原市 | 47.37 | ND |
| 8/7 | 緑茶 | 神奈川県山北町、他 | 11.16 | ND |
| 9/11 | ブルーベリージャム | イタリア | 6.39 | ND |
| 9/17 | 原木しいたけ粉末 | 群馬県 | 118.12 | ND |
| 11/6 | レンコン(焼いた粉末状) | 茨城県 | 25.69 | ND |
| 12/11 | 干し柿 | 福島県南相馬市 | 12.49 | ND |
| 12/17 | 干し柿+水道水 | 福島県南相馬市 | 6.75 | ND |

ND（検出限界値未満）検体

| 月 | 検体 |
|------|--|
| 9月 | 機器更新のため測定中止 |
| 10月 | /4 乾燥よもぎ（新潟県十日町市松之山）、/4 乾燥よもぎ（新潟県十日町市松之山）、/11 乾燥よもぎ（宮古市岩手県）、/18 原木しいたけ・加熱（群馬県）、/18 レンコン・加熱（茨城県）、/25 梨（福島県）、/25 精米（福島県） |
| 11月 | /1 精米（福島県白河市）、/1 渋皮つき栗（長野県東御市）、/8 ワイン（モルドバ）、/8 精米（市内）、/15 レンコン（千葉県）、/22 ハチミツ（岐阜県）、/22 オリーブオイル（ギリシア）、/29 白米（福島県伊達郡国見町） |
| 12月 | /6 2012梅干し（小田原市）、/13 2013梅干し（小田原市）、/13 2014梅干し（小田原市）、/20 2019梅干し（神奈川県小田原市）、/20 銀杏（加熱）（市内） |
| 1月 | /10 みかん（市内）、/10 さつまいも（千葉県）、/17 びわの葉茶（山梨県藤野市）、/17 干しいたけ（不明）、/25 竹炭パウダー（不明）、/31 ブルーベリージャム（栃木県益子町）、/31 カリン（長野県） |
| 2月 | /14 菊芋（長野県）、/14 落花生（中国）、/21 冷凍ブルーベリー（群馬県片品村）、/21 子持ち鮎の甘露煮（国産）、/28 チョコレートクッキー（ドイツ）、/28 雑穀米（群馬県前橋市） |
| 3月 | /6 麦茶（長野県安曇野市）、/6 ほうじ茶（不明）、/13 ブルーベリージャム（不明）、/13 生しいたけ（群馬県）、/28 菌床生しいたけ(加熱)（東京都府中市）、/28 干しいたけ（粉末）（台湾） |
| 4~5月 | 緊急事態宣言により測定中止 |
| 6月 | /17 ひよこ豆(アメリカ) |
| 7月 | /3 スモモ（市内）、/3 スモモ（千葉県市原市）、/10 竹の子（真竹）（長野県）、/10 どくだみ（市内）、/17 スイカ（福島県）、/17 トマト（宮城県仙台市若林区）、/31 煎茶（静岡県） |
| 8月 | /1 胚芽玄米（宮城県）、/7 シリアル(ドライフルーツ入り)（不明）、/14 緑茶（埼玉県）、/14 緑茶（埼玉県）、/21 ブルーベリージャム（デンマーク）、/21 桃（福島県）、/28 焼き赤イカ（宮城県）、/28 サンマ煮（千葉県銚子市） |
| 9月 | /4 ブルーベリージャム（不明）、/4 ブルーベリーソース（不明）、/11 マックフライポテト（アメリカ）、/18 ブルーベリー・シロップ漬け（缶詰）（岩手県）、/18 菌床生しいたけ（加熱）（岩手県岩泉産）、/25 いわし、さば、うるめ節（日本）、/25 製茶（埼玉県） |
| 10月 | /2 米（市内）、/2 大豆粉末（日本）、/9 平飼卵 白身（茨城県桜川市）、/9 平飼卵 黄身（茨城県桜川市）、/16 ブルーベリースプレッド（フランス）、/16 EM自然栽培レンコン（愛知県）、/23 米（福島県白河市）、/23 酒蒸しホシノコ（千葉県）、/30 炒めナメコ（長野県上田市）、/30 柿（福島県南相馬市） |
| 11月 | /6 さつまいも（自然栽培）（埼玉県飯能市）、/13 米ぬか（長野県）、/13 ゆず（市内）、/20 スキムミルク（不明）、/20 ジンジャークッキー（スウェーデン）、/27 包装米飯（神奈川県）、/27 乾燥おから（日本） |
| 12月 | /4 ずいき（市内）、/4 大根（東京都調布市）、/11 生しいたけ（栃木県）、/18 生椎茸（東京都瑞穂町）、/18 あんぱ柿（福島県伊達市） |

測定器：シンチレーション検出器：CANBERRA 802 シリーズ 3x3 インチ MCA（マルチチャンネルアナライザ）：Osprey
測定核種：セシウム 134,137 測定容量：200ml 測定時間：6 時間